

株式会社マルサ

能代市向能代字上野越55

狂いの無い美しい木目が揃った大型木製フレームの製作により 大型で現代的なデザインの組子細工の世界を発信

【事業計画名】伝統的な和の優れた美しさを表現できる組子細工を使うインテリアの提供



導入したエッジバンダーによる化粧板貼り付け作業



集成材の表面に化粧板を貼り付けた木枠の例

取り組みの経緯

マルサは伝統的な和風建築である神社、仏閣、旅館などの内装として組子障子、襖などを製作している。手作業による細かな製作工程が多くを占める業界だが、同社は経験を積んだ熟練工が20名程度在籍しており、他社にない生産力の高さとなっている。花柄や自然の風景をデザインした製品は精度が高く、デザイン要求や短納期への対応力にも高い評価を得ている。

近年は国内外からの観光客増加にともない、ホテルや大型の和風旅館のロビーや共有スペース、イベントホールのインテリアとして、組子障子を取り入れられているが、より大型化したデザインや和と洋が融合したデザインなどが好まれる状況となっている。

若い世代や日本を訪れる外国人に現代的でより大型の組子細工の伝統工芸の技能を発信するため、本事業を計画した。

実施内容

製品を大型化するためには、従来よりも太く長い枠組みを作る必要があるが、枠組みを大型化した場合、以下のような課題の発生が考えられた。

- ①節や年輪の歪みによる枠材のねじれや狂いの発生
- ②節や歪みのない木材を使用した場合のコスト高
- ③均一な木目や美しい色を揃えるのが難しい
- ④気温や湿度変化による収縮・亀裂の発生

課題の解決方法として考案したのが、狂いのない集成材で木枠を作り、表面に化粧板を貼り付ける方法であった。このため、ドイツのホルツヘル社からエッジバンダー（自動縁貼機）を導入した。この機械は集成材表面への化粧板の貼り付けのほか、手触りを改善する表面研磨工程までの機械化が可能となる。精度向上とコスト削減の両立が可能となった。

事業の成果

変形が少ない集成材を使用したことで、反りやねじれの防止につながり、直線性のブレは従来に比べ1/10に改善された（30mm→3mm）。化粧板の貼り付け～表面研磨工程は補修作業が不要なため、作業期間が1/4と大幅に短縮している。

組子の作業を行っている業者自体が少なく、価格比較ができないため、売り手市場となっている。価格の決定権は製造者側にあるため、コスト削減が収益向上に直結する構図となっている。平成29年度の売上と収益は前年度に比べて大幅に増加した。



天井に大型木枠の障子を配置した例



和柄の障子を合わせた衝立の例



大型木枠を使用した格子戸の例

能代市は昔から木材産業が盛んで、木工製品も優れた技術が蓄積されてきた歴史があります。当社にも優れた技術者が多数在籍し、寺社仏閣や旅館、和の美しさにこだわった住宅などで日本の伝統美を提供しています。大型の組子障子を作る技術は業界でもまだ完全に確立されていませんが、伝統的な手作業の技術を継承しながら、設備を利用した新たな技術を融合し、今までにないサイズや複雑な模様を組み込んだ新しい製品で差別化をはかります。さらに、この技術を若い世代に引き継いでいきたいと考えます。



代表取締役
佐藤 照悦さん

今後の活動予定

外国人観光客の増加や東京オリンピック開催決定などを受けて受注は良好に推移しているが、佐藤社長は「一過性のもの」と捉えている。時代の変化にあわせて求められるものは移り変わるため「常に職人の手技と機械技術の融合をはかることが必要」と語る。

また、1現場あたりの工数が巨大化・複雑化するなかで、木製建具企業数が年々減少していることを危惧している。「1現場1企業で対応することは年々難しくなる。広域の2～3社が協力し、個々の得意分野を分担する形で対応する仕組みが必要になると思う」と話す。



株式会社マルサ

代表者	代表取締役 佐藤 照悦
設立	昭和24年10月
資本金	1,100万円
従業員数	25名
業種	木材・木製品製造業
TEL	0185-54-1002
FAX	0185-55-1227
Eメール	marusa-tategu@bz04.plala.or.jp